

国 語

注 意

1. 問題は全部で15ページである。
2. 解答用紙に氏名を忘れずに記入すること。
3. 解答はすべて解答用紙に記入すること。
4. 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離してはいけない。
5. 解答用紙は必ず提出のこと。この問題冊子は提出する必要はない。

マーク・シート記入上の注意

1. HBの黒鉛筆またはシャープペンシルを用いて記入すること。
2. 解答用紙にあらかじめプリントされた受験番号を確認すること。
3. 解答する番号の○を塗りつぶしなさい。○で囲んだり×をつけたりしてはいけない。

解答記入例(解答が1のとき)

1	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
---	----------------------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------

4. 一度記入したマークを消す場合は、消しゴムでよく消すこと。×をつけても消したことになる。
5. 解答用紙をよごしたり、折り曲げたりしないこと。

— 次の文章を読んで、後の問に答えよ。

なぜ、日本社会は引き裂かれ、分断されているのだろうか。その歴史的淵源を、さしあたり、わたしたちは、日本の近代社会の形成過程にもとめたいと思う。

日本の近代社会は、明治維新という政治的な変革と、新政府のもとで推進された廃藩置県や地租改正などの諸改革の結果として形成された。この明治という時代をどうとらえるか。今日、明治日本については、政治指導者から一人ひとりの国民までが一致団結して、「近代化」を追い求めた、いわば「価値観が共有された時代」としてとらえる見方が一方にある。もし、本当にそうであるとすれば、そこに社会の分断は存在しなかったということになるだろう。

しかし、この明治社会を「獣の世」として喝破した同時代人がいた。大本教という新しい宗教の開祖となった出口なおである。なおは、江戸時代末期の一八三六年、現在の京都府福知山市に生まれた。そして、明治時代も半ばを過ぎた一八九二年、突如神がかりを起こし、神の言葉語り始める。

外国は獣類の世、強いもの勝ちの悪魔ばかりの国であるぞよ。日本も獣の世になりて居るぞよ。……是では国は立ちては行かんから、神が表に現はれて、三千世界の立替へ立直しを致すぞよ。

神の言葉として、出口なおは、明治日本を弱肉強食の「獣の世」として描き出す。そうした「獣の世」が神によって「立替」えられるという終末論的予言が、なおの教義の核心であった。

なぜ、出口なおは、神がかりを起こしたのであるうか。民衆史研究者の安丸良夫は、江戸時代後期の民衆のあいだに広く定着していた「通俗道德」的倫理観に注目する。安丸によれば、江戸時代後期の商品経済の急速な浸透によって、民衆は商品経済に巻き込まれ、「家」ごと没落する危機に直面した。そうした事態に直面した民衆は、

A	A
B	B

、謙譲、孝行などの規範を内面化し、それに従うことで家没落の危機を回避しようとした。こうした規範が「通俗道德」である。

出口なお自身、こうした通俗道德の厳しい実践者であった。しかし、それにもかかわらず、なおの一家は没落し、なおは、社会の最下層の職業に従事するにいたる。

当然のことながら、市場経済社会において、努力したにもかかわらず失敗する人間は、常に存在する。しかし、通俗道德、すなわち、「A」に働き、「B」に努め、努力するものは成功する」というイデオロギーを前提とすると、経済的な失敗者は、そのまま通俗道德の実践が十分ではなかったとみなされる。通俗道德的イデオロギーのもとでは、経済的な失敗者は、そのまま「C」なのである。

経済的失敗者の意識のなかには、自分は、通俗道德の実践にもかかわらず、なぜこのような悲惨に直面するのか?——という不条理感が蓄積されていく。そうした失敗者が通俗道德の実践に費やしたエネルギーは、「ニヒリズムやひそかな怨恨」に転化し、「歴史の藻屑」となった、と安丸は言う。

その数すくない例外として安丸が挙げたのが、出口なおである。自分が通俗道德を実践したにもかかわらず、失敗したとすれば、それは自分が間違っていたのではなく、世の中が間違っていたと考えざるを得ない。なおは、神がかりを跳躍板として、通俗道德の実践に投入した膨大なエネルギーを反転させ、明治社会のあり方を「獣の世」として批判する視座を獲得したのである。

それでは、なぜ出口なおの眼に、明治社会は「獣の世」、つまり、弱肉強食の世界としてうつったのであるのか。

通俗道德が支配する社会とは、「努力は必ず報われる」という建て前のもとで、勝者と敗者が存在するような社会である。しかし、個別の人生一つひとつをとりあげてみれば、そこには多くの偶然が介在するから、実際には努力が必ず報われるという保証はない。それにもかかわらず、ひとびとは、自らが通俗道德を実践したことを証明し、社会的な承認を勝ち取るために、経済的に成功しなければならぬ。結果として発生するのが、成功をもとめるための、あらゆる手段を尽くした競争である。

A、B、自己規律をもとめる通俗道德は、逆説的に、生き馬の目を抜くような、「万人の万人に対する戦争状態」を招きよせてしまう。これこそが、出口なおが「獣の世」とよんだ明治の「分断社会」である。

通俗道德が広まり始めるのは、江戸時代の後半である。それがこうした極端な競争社会に全面化するのには、明治維新によって

江戸幕府が崩壊し、それまでひとびとの行動に枠をはめていた江戸時代の身分制的秩序が崩壊した後である。

江戸時代の身分制社会は、ひとびとを、村、町、藩のような小集団に束縛する点で、これもまた一つの D 社会ではあった。しかし、急激な変革によってそうした仕組みが破壊され、通俗道徳的実践だけがひとびとの支えになるような社会が到来すると、今度は競争の勝者と敗者のあいだの新しい分断が生まれるのである。そして、現在の分断社会の原型となったのは、この明治に生まれた分断の形であった。

そもそも、明治維新で成立した政府は、それが「藩閥政府」とよばれるように、幕末・維新の激しい政争と戊辰戦争ぼしんという軍事的競争を、権謀術数の限りを尽くして勝ち抜いた一部の藩の出身者から構成されていた。結果として、戦争を勝ち抜いたという以外に、彼らの権力に正当性は存在しない。

そして、幕末の競争を勝ち抜いた者たちの地位が、新政府の成立後も安泰であるという保証もまた存在しない。明治政府は分裂を繰り返し、そのたびにかつての権力者の一部は、権力の座から追放されていった。追放された者たちは「彼ら」⁴ではなく「自分たち」こそが権力の担い手としてふさわしい、という再度の競争を挑むことになる。

国会の開設によって政治参加を拡大させようとする自由民権運動は、このようにして始まった。

こうした政治状況のもとでは、権力の担い手と、その批判者の間には、相互不信⁵しか存在しない。一八九〇年に帝国議会が開設された後も、その状況は変わらなかった。

自由民権運動の流れを汲み、藩閥政府を批判する立場にたった「民党」(野党)の主張は、「民力休養」を旗印とする減税であった。しかし、民党の藩閥批判は、政府が推進する個々の政策への批判というよりも、政府それ自体が信用できない、そのような信用できない政府に大きな財源を与えることはできない、という論理でなりたっていた。つまり、明治期の財政は、二〇世紀後半の日本財政が直面したのと同様の「連帯の危機、政治的対立の深化、そしてそれらが醸成した租税抵抗」に苦しめられていたのである。

通俗道徳は、もともと市場経済化のなかで、家の没落を回避するために形成された規範であるから、誰からも助けられること

なく家が存続できるように、個々人が能力を尽くして働くこと、すなわち「A」に至上の価値が置かれる。

その「A」を補うものが、危機に直面しても他者からの助けを仰がずに済むだけの貯蓄を持つための「B」である。そのような通俗道徳は、弱肉強食の競争社会を生み、その競争社会は、政府不信と租税抵抗を権力闘争に利用する議会を生んだ。

こうした性格を持つ議会が、⁶経済的弱者のための施策に熱心であらうはずがない。当時、現在の生活保護法に対応する貧困対策制度としては、一八七四年に制定された「恤救規則」が存在した。だが、この法律は、少しでも労働能力のあるものをまったく救済の対象としないという、厳しい制限救助主義の法律であった。こんにちの「自助」に通ずる制度設計である。

一八九〇年の最初の帝国議会に、政府は、この制限を緩めた「窮民救助法」を提出するが、議会はこれを廃案にしてしまう。同様の試みはその後もなされたが、実現することはなく、結局、「恤救規則」は一九三三年に「救護法」が施行されるまで、六〇年弱にわたって存続することになった。近代日本において、経済的弱者を救うことが「ラン救」であり、「^aタ民」を増加させるものだという論理はこうして定着した。

藩閥政府と民党の対立を統合し、明治社会をkarouうじて安定に導いたのは、いわゆる地方利益誘導型の政治であった。地方選出の政治家が道路建設や鉄道敷設、河川修築などをその地方に誘致し、その見返りに政治家は地方選挙民からの支持を調達する。こうした地方利益、つまり社会資本整備のやりとりを通じて、民党は、「民力休養」の旗をおろし、一定の増税に合意するにいたる。「弱者の救済」という目標ではなく、社会資本整備を通じた経済成長という目標が、政府と民党の間で増税の合意が作られるためには必要だった。

ただし、利益誘導型政治の直接の受益者は、各地の地主・資産家・政治家といった、競争の勝者たちである。社会資本整備の直接の恩恵にあずかることのできない者たちは、競争の勝者の地位を目指して「立身出世」の競争を繰り広げることになる。そこで発生する敗者の怨恨、努力を重ねても立身出世の可能性のないひとびとのやり場のない不満は、その後の国際情勢や経済状況の変化によって顕在化し、社会の安定を脅かすことになる。

(井手英策・松沢裕作「分断社会の原風景」による)

問一 傍線部1「日本社会は引き裂かれ、分断されている」とあるが、明治期の社会に即して見ると、どのように分断されているといえるか。最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 1。

- ① 競争社会の勝者と敗者
- ② 近代化の推進派と反対派
- ③ 権力の担い手と批判勢力
- ④ 通俗道徳の実践者と非実践者
- ⑤ 明治社会の現実に覚醒した者と覚醒しない者

問二 傍線部2「喝破」の意味として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 2。

- ① 誤った説を非難し、退けること
- ② 誤った説を論難し、否定すること
- ③ 誤った説の問題点を証明すること
- ④ 誤った説を退け、真実を称讃すること
- ⑤ 誤った説を論破し、真実を解き明かすこと

問三 空欄 A・B に入る最適な語を、それぞれ次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は A が

3、B が 4。

- | | | | | |
|------|------|------|------|------|
| ① 礼節 | ② 報恩 | ③ 博愛 | ④ 徳行 | ⑤ 貞節 |
| ⑥ 忠誠 | ⑦ 誠実 | ⑧ 信義 | ⑨ 儉約 | ⑩ 勤勉 |

問四 空欄 C に入れるのに最適な語句を次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 5。

- ① 前近代の遺物
- ② 社会的な弱者
- ③ 道徳的な敗北者
- ④ 競争社会の落伍者
- ⑤ 共同体の非構成員

問五 傍線部 3「歴史の藻屑」となった」とあるが、それはどのような意味か。最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 6。

- ① 近代史全体をおおむね悲惨な要素となった。
- ② 近代史の底辺を象徴する重要な事例となった。
- ③ 歴史の因果関係を形成する普遍的な要素となった。
- ④ 歴史の中で意味がないままに忘れ去られる存在となった。
- ⑤ 個々の存在は微小であるが、歴史を底辺で動かす原動力となった。

問六 空欄 D に入る最適な語を次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 7。

- ① 原始
- ② 差別
- ③ 統制
- ④ 分断
- ⑤ 共同体

問七 傍線部 4「彼ら」とあるが、何をさすか。最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 8。

- ① 政府を批判する民党の者たち
- ② 現在、権力の座にいる者たち
- ③ 権力の座から追放された者たち
- ④ 明治維新を成功に導いた者たち
- ⑤ 幕末の競争を勝ち抜いた者たち

問八 傍線部5「相互不信しか存在しない」とあるが、その理由として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **9**。

- ① 権力の担い手と批判者とは、それぞれ支持基盤が異なるから。
- ② 権力の担い手と批判者とは、それぞれ異なる藩の出身者だから。
- ③ 権力の担い手と批判者とは、基本的な政治信条を異にするから。
- ④ 権力の担い手と批判者とは、それぞれ経済的基盤を異にするから。
- ⑤ 権力の担い手と批判者とは、権力闘争を繰り広げる当事者だから。

問九 傍線部6「経済的弱者のための施策に熱心であろうはずがない」とあるが、その理由として不適切なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **10**。

- ① 経済的弱者を通俗道徳の失敗者とみなす社会的背景であったから。
- ② 議会の掲げる租税抵抗の旗印は、権力闘争の手段にすぎないから。
- ③ 経済的弱者は通俗道徳を実践しなかった人びとにはかならないから。
- ④ 個々人が能力を尽くして働くことに至上の価値が置かれていたから。
- ⑤ 政府を批判する議会も、幕末の競争を勝ち抜いた者によって構成されていたから。

問十 二重傍線部aのランは「みだりに」という意の漢字である。最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **11**。

- ① 濫
- ② 瀨
- ③ 浪
- ④ 爛
- ⑤ 瀾

問十一 二重傍線部bのダは「なまける」という意の漢字である。最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **12**。

- ① 惰
- ② 駄
- ③ 妥
- ④ 兌
- ⑤ 怠

二 次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

管理の科学的研究にとつての画期的な転換は、F・W・テイラーの『科学的管理法——マネジメントの原点』とともに到来した。この著作は、おそらく現代世界でもっとも影響力をもった著作に数えいれられよう。当初はかぎられた数の読者しかいなかったようだが、生産性を最大にするには現代社会において労働がどのように管理されるべきかについての見方を根本から転換するものとなった。テイラーは重症の仕事中毒だったようで、朝五時に起床すると七時から夕方五時まで働き、徒歩で帰宅すると夕食をすませたのち、一—時まで勉強する。それからジョギングへ出かけてから就寝し、五時間フルに寝れば十分だったようだ。あきらかにこれは、自分にも他人にも **A** をまったく許さない人間の典型だ。

テイラーは、当時の最先端のテクノロジーであったストップウォッチを使った。実験にはたくさんの労働者が駆りだされたが、**B** テイラーは「シユミット」という名のオランダ系移民に関心を絞った。働いているときも休憩しているときもシユミットにはモニターがつけられ、**C**。こうしていつさいが数量化された。テイラーの考えでは、シユミットの生産性には相当な改善の余地があった。**D**、テイラーの指示にしたがうことでシユミットは、以前には一二・五トンしかとれなかつたのと同じ時間内で、四七トンもの銑鉄をとれるようになった。**E**、生産性の増大は、シユミットに

前よりも多大な労力を強いるものではあつたが、もしシユミットがいつさうの労力を発揮したならば、それ相応の報酬を得ることになるはずだとテイラーは考えていた。**F**、生産性がおおよそ四〇〇パーセントにも増大したのに比べて賃金はたったの四〇パーセントしか上がらなかつた。テイラーに言わせれば、これは自身の科学的管理法理論の有効性にたいする肯定的な証拠であつた。

テイラーの見るところ、シユミットは飲みこみのきわめて遅い人間だが、それがシユミットの一番の長所でもあつた。彼の理論によると、力仕事に従事する者は筋力さえ提供できればよく、考えるのはもっぱら管理職の担当だ。労働の工程そのものは、労働者のスキルにいつさい左右されないものとなつた。労働者の日々の課題のなから職人芸や伝統の痕跡はアトカタもなく消

えさ^cり、いまや労働者は理想^cとしてはロボットと同じように心をもたないものであるべきだとみなされるようになった。なにしろ、労働者ががわでのいっさいの知識や主導権は追いはられ、作業の全過程において管理職が事実上完璧な支配権を握るようになったのだ。作業の一部をちがった風にやろうと考えたり、みずから指示を出したりしようとする労働者は、たんに規則違反者とみなされる。要するに、そうした労働者は格³下げされる憂き目にあうわけだ。こうした作業計画を労働者に受けいれさせるためには、賃金を上げてやりさえすればよいとテイラーは考えたが、そのいっぼうであらかじめ労働力を測定しておくことが不可^cだとも考えていた。

テイラーの原理を用いてもっとも成功を収めた例は、自動車メーカーのフォードだ。そこでは、この原理に流れ作業が結合された。流れ作業の基本的なテクノロジーは、すでに食肉業界などでは用いられていたが、フォードはそのテクノロジーが用いられるスタイルを変えた。流れ作業の基本となるアイディアは、労働者を仕事につかせるのではなく、仕事のほうがみずからは移動しない労働者のもとに届けられるところにある。その結果、管理者にはそれぞれの課題が完遂されるべきスピードを決定することが可能となり、それによって分業の原理はまったく新たなレベルにいたった。フォードで流れ作業にのっとって車を製造する労働者たちには、まったくと言ってよいほど技能は必要なかった。そればかりか、思考をはたらかせる技能や能力を欠いていなければならないほど、それがその労働者の長所^dとみなされたほどだ。労働は、気の遠くなるほどに単調なものと化した⁴が、フォードの考えでは、十分な高給さえ支払われさえすれば、むしろ労働者たちはすすんでこうした「格⁴下げ」を受けいれる。

流れ作業による労働は、けっしてチャーリー・チャップリンの映画『モダン・タイムス』で描かれたほどに非常識なものではなかったが、この戯画はまさに的^eを **G** いた。フォード流のパラダイムにおいては、労働者は程度の差こそあれ、機械の一部品としかみなされなかった。これこそは、チャップリンの映画のなかのチャップリンが機械のなかに巻きこまれそれと一体化した場面で巧みに描きだされていたことだ。チャップリンのひきつけを起こしたような動きには、機械の瞬間的な動きに人間の身体がとりこまれてしまったさまがみごとにあらわされている。哀れなチャップリンが自動食事マシンにしばりつけられるという風変わりなシーンも忘れてはならない。栄養が与えられれば労働者は働きつづけられる。そのさまは、エンジンに燃料を

供給する工程と瓜二つだ。

一九四〇年にフォードは、自社の短編映画『交響曲F』をセイサクした^bが、これはチャップリンの『モダン・タイムス』にたいする返答とみなせる。そこで試みられたのは、流れ作業による労働にたいするずっと前向きなイメージを喚起することだ。作業のペースはゆつくりで、すべてが渾然一体となつて進行するさまの美しさがきわだたせられ、どの作業ひとつとつてもわずかな繰りかえしで進められるのが強調されることで、単調だという印象が一瞬たりともよぎることはないようになっていく。最後には工場全体が、車のパーツすべてに生命が宿り、車たちがじっさいにみずからを組み立てはじめる魔法の王国へと変貌する。映画は「地球からの資源は、フォードに勤めている者と管理職、そして機械の手によつて人間に仕えるものにつくりかえられる」というせりふで締めくくられる。流れ作業のもとの生活に対するチャップリンのグロテスクなまでの描写のほうが、おそらく真実にはずっと近かつたろう。なにしろ、フォードは驚くほど急激に賃金アップせざるをえなくなったのだから。

フォードが名だかい日給五ドル制を導入する以前は、労働回転率は三七〇パーセントだった。これは、H ということだ。高回転率の主たる理由は、労働者たちが失策をしでかしたからではない。平均的な労働者たちが金銭的な苦境に直面していたにもかかわらず職を辞したのは、仕事に耐えられなくなったからだ。フォードは、日給五ドル制によつて単調さがまえよりも耐えられるものになると見込んでいた。「ウォール・ストリート・ジャーナル」紙は、日給五ドル制を「ばかげている」とあつさり切つてすてたが、「ニューヨーク・イヴニング・ポスト」紙は、逆にそれを「すばらしく寛大な行為」と評した⁵。だが、どちららもちががっていた。フォード自身はこの試みをみずから「とてもないコストカットのふるまい」と呼んだ。流れ作業が驚くほどの生産性の増大をもたらした結果、フォードは従業員にたいして最大で四倍も、つまり日に二〇ドル支払うこともあった。それでも以前と同じだけの利潤は上がつていたので。

フォード的製造モデルの理想は、正確に同じ作業を遂行し、作業をおこなうたびにそこから最大の成果をもたらすという、まったくぶれることのない労働者だ。労働者たちは一箇所に居つづけ、機械のほうが動いてゆく。こうした手法にともなう問題は、雇用主がしばしば彼らの望む以上のぶれのなさを労働者たちから引きだしてしまうことだ。給料面を別にすれば、自分の

仕事にほとんど満足を見いだすことのない熟練技能をもたない労働者たちは、ときとともに反抗的になり、雇い主にたいして非協力的になってゆく。仕事の手順のなかで明示的に説明されていなかったどんな課題にたいしても、それをするのを嫌がるようになり、いつさいが交渉の対象となる。サボりさえ稀ではなくなる。これはおそらくは、労働条件にたいする道徳的反抗であり、労働者をひとりとして人間あつかいしない工場システムのなかで、労働者が自己主張するひとつのやりかたとみなされるべきだ。

イマニユエル・カントの道徳哲学が、労働のこのような組織化において道徳的に問題とされるべきはなんなのかを見きわめる手助けとなる。カントの立場からするなら、労働者はもちろんのこと、あらゆる人間は目的それ自体としてあつかわれねばならない。カントはこう書いている。「きみ自身の人格ならびにほかのすべての人格における人間性を、つねに同時に目的として用い、たんに手段としてのみ用いないように行爲せよ」。ここに言われていることの核心は、人格へ敬意を払おうということだ。カントによるなら、もし人間存在を、そこに人格が宿っているという点を別にすればなんの価値ももたないただの道具のようにあつかうなら、私たちはそんな人間になんの敬意もはらわなくなってしまう。⁶注意されねばならないのは、私たちは人間を自分の目的のための手段として用いることが絶対にできないとカントが述べているわけではないということだ。たとえばある商品を提供してくれる相手にたいして代金を支払うときはいつでも、じつのところ私たちはその相手を目的にたいする手段として用いている。カントが言っているのは、私たちは人間存在をたんに手段としてのみあつかうのではなく、つねに同時に目的それ自体としてもあつかえということだ。そればかりか、私たちはその存在を人間たらしめているもの、すなわち自律してもしくは自分で指示をだして行動できるといふその能力にたいしても敬意を払わねばならない。テイラーの科学的管理法のモデルとフォードの工場におけるその改良が、労働者の自律性にたいするいかなる可能性も認めていなかったことは、ことのほかはつきりしている。カントの立場からするなら、それは非道徳的とみなさざるをえない。

(ラーズ・スヴェンセン「働くことの哲学」より)

問一 二重傍線部 a「アトカタ」を漢字にする場合に最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は

13。

- ① 後方 ② 後型 ③ 跡方 ④ 痕片 ⑤ 跡形

問二 二重傍線部 b「セイサク」を漢字にする場合に最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は

14。

- ① 精策 ② 製削 ③ 制作 ④ 政策 ⑤ 成作

問三 傍線部 1「生産性を最大にする」とはどういうことか。最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄

番号は 15。

- ① 同じ時間内で可能なかぎり多くの製品を産み出す

- ② 長時間労働を課すことにより多くの付加価値を産む

- ③ 一工場に可能なかぎり多くの労働者を雇用する

- ④ 一工場で一製品を生産することで最大量の製品を産み出す

- ⑤ 一工場で多品種を生産することで最大の利益を上げる

問四 空欄 A に入る最適な語句を次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は 16。

- ① 不健康な生活様式

- ② 社会規範に背いた精神傾向

- ③ 快樂主義

- ④ 自堕落な暮らし方

- ⑤ 気の緩み

問五 空欄 B、D、E、F に入る語句の組み合わせとして最適なものを次の①～⑤から選
び、その記号をマークせよ。解答欄番号は 17。

- ① なかでも——じっさい——もちろん——だが
- ② じっさい——もちろん——だが——なかでも
- ③ もちろん——だが——なかでも——じっさい
- ④ だが——じっさい——もちろん——なかでも
- ⑤ だが——なかでも——もちろん——じっさい

問六 空欄 C に入る文として最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は 18。

- ① テイラーはシユミットのひとつひとつの動作すべてにかかる正確な時間を計測した。
- ② 仕事の疲れをすみやかに解消できる休憩の取り方を指導した。
- ③ 時間にルーズな彼が定刻になっても持ち場に戻らない場合には厳しく罰した。
- ④ テイラーは彼の休憩時間を監視することで、気の緩みを一定の限度にとどめようとした。
- ⑤ 働いている時間と休憩している時間、すなわち労働時間と非労働時間を別種の時間として厳密に区別した。

問七 傍線部 2「労働の工程そのものは、労働者のスキルにいつさい左右されないものとなった」とあるが、どういうことか。最
適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は 19。

- ① 個々の労働者のもっている技量の違いについては問題とせず、就業時間によって一律の賃金を支払うこととした。
- ② 共同作業を行うにあたって自分の腕に誇りをもつ労働者はむしろチームワークを乱すものとみなされるようになった。
- ③ 製品をつくりあげるまでのさまざまな動作が細分化され、ひとりひとりの労働者が担当する作業は単純化された。
- ④ 労働者はこれまで以上の労力を強いられるため、もはや頭を使う余裕を失っていった。
- ⑤ 作業の計画立案にかかわる部署と、過酷な力仕事をする部署との間で話し合いをすることはなくなった。

問八 傍線部3と4で「格下げ」が二か所使われている。それぞれの説明として最適なものをそれぞれ次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は3が20、4が21。

- ① 企業組織内の身分が下げられ、その具体的な現れとして給料が下がる。
- ② 自律して判断、行動することのできる人間として見なされなくなる。
- ③ 作業が単調なものとなって、労働者の技術力に対する評価が下がる。
- ④ 仕事に意味や遣り甲斐を見いだせなくなり、勤労精神が低下する。
- ⑤ 工場労働者に対する社会的評価が低下する。

問九 空欄 G に入る語句として最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は22。

- ① 知って
- ② 当てて
- ③ はずして
- ④ 射て
- ⑤ 逸れて

問十 空欄 H に入る文として最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は23。

- ① 全労働者が一年にはほぼ四回そっくりとりかえられねばならない
- ② 全労働者を四つのグループに分け、交代制で昼夜を問わず組みたてラインを動かす
- ③ 円環状に配置された流れ作業のスピードが、それ以前よりもほぼ四倍になる
- ④ 一つの製品を大量に生産するために、販売計画を含めた回転率を四倍にする
- ⑤ 機械化が進むとともに労働環境のみならず雇用までもが悪化した

問十一 傍線部5「だが、どちらもまちがっていた」とあるが、このように言えるのはなぜか。次の①～⑤から最適なものを選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は **24**。

- ① ただちに他の企業もフォードの日給五ドル制をまねたから。
- ② 五ドルで働くものなどないから。
- ③ 利益を度外視した賃金だったから。

④ 雇い主が自分の利益よりも労働者の利益を優先することなどないから。

⑤ フォードは自らの利益を上げるために賃金を上げたのだから。

問十二 傍線部6「注意されねばならないのは」で始まる文は、何を言おうとしているのか。次の①～⑤から最適なものを選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は **25**。

① カント自身、自分の唱える道徳が現実味のない理想論だということを承知している。

② 建前はともかくとして、実際のところ私たちは常に自分のために他人を利用してはばからない。

③ 人間が社会の中で他人と共に生きている以上は、なんらかの意味で他人を利用しており、また利用されている。

④ 目的を重視することは、その目的を達成するためにならどのような手段をとってもいいという考えを導く。

⑤ 他者がある目的に対する手段であれば、それは誰であつてもよく、いわば取り換え可能だということになる。

問十三 筆者はこの部分の後に「なぜ管理が重視されるかと言えば、雇い主と従業員が利害をともにするわけではないからだ」と書いている。波線部 a「肯定的な証拠」、b「長所」、c「理想としては」、d「長所」、e「道徳的」、f「改良」について、「雇い主」側の表現については①を、「従業員」側の表現については②を、それぞれマークせよ。解答欄番号は aが **26**、bが **27**、cが **28**、dが **29**、eが **30**、fが **31**。